

ホルスタイン種牛の雌選別精液を用いた後継牛確保への取り組み

淡路基幹家畜診療所 三原診療所

○是枝明博 宮崎俊輔 小山憲司 長谷川弘哉

山本直史 住 伸栄 橋本宰昌

近年の酪農経営は乳価の下落、飼料価格の高騰など厳しい状況にある。また、交雑種(F1)子牛の市場取引価格の上昇、ホルスタイン種雄牛授精の減少などの要因が絡み合い後継牛確保による酪農経営の安定は大変難しくなっている。そこで今回、ホルスタイン種牛の雌選別精液を用いた後継牛確保への取り組みを行い、その有益性を検討した。

取り組み

1. 診療所管内ホルスタイン種牛への人工授精実施状況調査

平成 23 年度および平成 24 年度における種雄牛品種別授精割合、初回授精受胎率、育成牛初回授精受胎率を調査した。

2. 育成牛への雌選別精液人工授精実施状況調査

平成 23 年度および平成 24 年度における雌選別精液を用いた育成牛初回授精受胎率を調査した。

3. 育成牛に対する雌選別精液使用のシミュレーション

管内 A 農場の平成 23 年度年間繁殖成績を用いて雌選別精液を育成牛に用いた場合の経済効果を試算した。

結果

管内の種雄牛品種別授精割合は平成 23 年度ホルスタイン種 49.6% (1354/2729)、雌選別精液 1.6%(44/2729)および黒毛和種 48.8%(1331/2729)、平成 24 年度ホルスタイン種 55.4% (1518/2741)、雌選別精液 2.4% (65/2741) および黒毛和種 42.2% (1158/2741) であった。初回授精受胎率は平成 23 年度 42.5% (671/1579)、平成 24 年度 37.9% (525/1384) 計 40.4% (1196/2963) であった。育成牛初回授精受胎率は平成 23 年度 58.2% (184/316)、平成 24 年度 53.5% (106/198) 計 56.4% (290/514) であった。

雌選別精液を用いた育成牛初回授精受胎率は平成 23 年度 65.8% (25/38)、平成 24 年度 35.0% (14/40) 計 50.0% (39/78) であった。

管内 A 農場における雌選別精液を用いたシミュレーションの経済効果は¥171,040 であった。

まとめ

今回、雌選別精液を用いた育成牛初回授精受胎率は、通常の精液と比べても遜色なく良好であった。また雌選別精液の使用は、シミュレーションにおいても経済効果が認められ、収益の改善および後継牛確保により酪農経営の安定に寄与するものと考えられた。今回の結果をふまえ酪農家に雌選別精液の使用を広く推進していきたい。